



給仕と呼吸を合わせながら、そばを次々と平らげる食士の皆さん。胃袋の限界に挑戦し、熱戦を繰り広げました

全国の胃袋自慢が熱き戦い
第57回わんこそば全日本大会は2月11日、文化会館で開かれ、全国の胃袋自慢の食士180人が大食いにも挑戦しました。小学生の部、中高生対象のわんこそば甲子園、団体の部、個人の部の4種目で熱戦を展開。行司の「け(食え)け、飲め飲め」の掛け声や観客からの「諦めるな」「飲み込め」という熱い声援を受けながら、食士たちはそばを勢いよくかき込みました。5分間で219杯を平らげた井本英明さん(神奈川県小田原市)が2年連続の優勝。見事な食べっぷりで会場を沸かせました。



出場した皆さんは宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を思い思いに朗読しました

「雨ニモマケズ」に思いを込めて
第8回「雨ニモマケズ」朗読全国大会が2月7日、花巻市交流会館で開かれました。県内外から個人・団体18組が出場し、それぞれの持ち味を生かして宮沢賢治の「雨ニモマケズ」を思いを込めて表現。花巻弁や英語、韓国語で朗読したり、歌や楽器演奏、寸劇を交えたりと工夫を凝らしたパフォーマンスが繰り広げられました。バリトン歌手の古川精一さんや宮沢賢治児童合唱団による「賢治さんといっしょに」と題したコンサートも行われ、観客の皆さんは賢治の世界に引き込まれていました。



氷山の氷を手にした子どもたちは、溶けるときに聞こえる「パチパチ」という音に耳を澄ませていました

南極への興味深める
南極の環境や観測隊の活動などを紹介する特別授業「南極クラス」が2月12日、内川目小学校で開かれました。県学校生活協同組合が主催し同小学校の児童34人が参加。南極観測隊員として現地で活動した経験のあるミサワホームの井熊英治さんが講師を務め、南極の厳しい自然環境や、観測隊の生活の様子を本物の氷山の氷や映像で紹介しました。井熊さんは「夢に出会うために、やってみたいという気持ちを大切にしたい」と子どもたちにメッセージを送りました。



コース終盤の上り坂を懸命に滑走する選手たち

記録更新を目指し力強く滑走
第29回花巻市内小学生クロスカントリースキー大会が2月7日、太田の高村山荘クロスカントリーコースで開かれました。市内の小学生約130人が出場し、1・2年生が1キ、3・6年生が2キのコースでタイムを競ったほか、1チーム3人によるリレー競技で白熱したレースを展開。同級生や保護者から大きな声援を受けながら、力強く滑走していました。菅原椋太君(湯本小3年)は「途中で追い抜かれてしまったけど、楽しく滑れた」と笑顔で話していました。



自身の取り組みを紹介しながら意見交換をする女性農業者などの皆さん

女性の視点生かし農業に意欲
「花巻発農業女子プロジェクト農村に関する女子の会」が2月7日、ホテル花城で開かれました。女性農業者同士のつながりを広めることを目指し、市が初めて開催したもので、県内の若手女性農業者など約40人が参加。農林水産省経営局就農・女性課の職員による講演のほか、参加者による事例紹介や意見交換が行われました。参加した皆さんは、女性ならではの視点を生かした農業との関わり方を学びながら、農業振興への意欲を高めていました。



4〜5 ㍓の太さに育っていた氷柱の根元。周りには崩れた氷の塊が積み重なっていました

たろし滝崩落測定不能
2月11日、氷柱の太さを測り、その年のコメの作柄を占う行事「たろし滝測定会」が石鳥谷町大瀬川で開かれました。同測定会には地域の農家など約200人が来場。1月の初めにはつららが下まで届き大きな氷柱になっていましたが、その後の好天や雨の影響で崩落を繰り返したため2年連続の測定不能となりました。大瀬川たろし滝測定保存会の板垣寛会長は「T.P.P.心配なので太れない」と恒例の川柳を披露。「結果は残念だったが、いい年になってほしい」と豊作を願っていました。